

見えなくなるんです、ときどき

昔、布団を頭までかぶって寝ると熱を出すと言われていた
顔だけがつめたい空気にさらされる

解体されている家

の横を通るとき、

玄関と二階に向かう階段が剥き出しになっていて

見てはいけないものを見ているようで恥ずかしくなる

（お手洗いの前にある段差は意図的だって、ぜったい）

夕方の丸ノ内線に飲みかけのカプチーノ

を持ち込むとき、

この空気はいつの空気なの、って

プラスチックの蓋と紙コップを聖域化しようとする

いつだってどんなときだって超えている、またいでいるものがある、

その緊張感をおぼえている

わたしたちもいっしょ、なのに

向こう側に 人 が入ると

透明人間みたいにな

あつ

と超えてしまうこともある

「いつでも相談してね」とか

投げやりなことを言ってしまう

（何を言ったらいいのか分からないこともあるのに）

ぞわりとした痛みは、のちのちに、じわじわ

境目には、

やさしい目をした何かがい

またいではいけない口を

何もいわないその目で

見守っている